

日付:2016年3月6日／聖書:ヨハネによる福音書16:25～33

説教:「わたしは既に世に勝っている」

弟子たちは目の前のイエスに対し、「あなたが神のもとから来られたと、わたしたちは信じます」という。しかしイエスは、「だが、あなたがたが散らされて自分の家に帰ってしまい、わたしをひとりきりにする時が来る」と言われた。実際にこの後弟子たちはイエスを裏切り逃げてしまう。では弟子たちの「信じます」は、ウソだったのか？弟子たちはイエスと一緒に死ぬ覚悟さえ出来ていた。しかし、イエスに対する弟子たちのキリスト像(先入観)が現実とかけ離れていた。それはまさに「屠り場に引かれる小羊のように／毛を切る者の前に物を言わない羊のように／彼は口を開かなかつた」(イザヤ53章)イエスの姿であり、そのイエスに躓く。

私たちもこのキリストの姿に躓く者である。何故なら人は他人よりも上に、人よりも上に上にと高みを好む。それに対しキリストは、家畜小屋に生まれ、飼い葉桶の中に寝かされ、羊飼いに会い、貧しい人々、病める人々と共に食卓を囲み、交わり、共に泣き笑い、怒りを発して行く。挙げ句の果ては、弟子たちに裏切られ、人々に嘲(あざけ)られ、唾をかけられ、むち打たれ、ついに十字架にはりつけにされていく。・・・人は、このキリストの姿に躓く。人が上に上にと高みを好む中であって、キリストは下に下にと低みに立たれる。余りにも真逆なキリストと人との相違がそこにある。私たちはそのキリストの立ち位置に立てる者か。

イエスは、《わたしは既に世に勝っている》と、この世の先取りした勝利宣言をされる。昨日の新聞に「辺野古新基地工事中断 県と国、和解成立」。国が歩み寄った和解と受け取りたいが、ただ懸念するのは、やはり「普天間基地」の固定化に繋がることである。そういう意味では、「普天間基地ゲート前ゴスペル」の行動は、益々、重要な働きになって来る。先日、普天間教会で説教して頂いた日本バプテスト同盟の渡邊さゆり先生が、教会から差し上げた謝礼を、マイクとスピーカーに変えたと連絡を受けた。そして、横浜の戸塚駅前でゴスペルを歌う会を始めた。毎月第一火曜日を「戸塚平和ゴスペル」と銘打って、数名の方々と普天間基地の現状を訴え、辺野古新基地建設阻止を訴え始めた。今や、「東京首相官邸前」「福岡・天神駅前」「岡山・和気駅前」そして「横浜・戸塚駅前」と、行動を共にする方々が全国に広がる。この事に慰めと励まし、勇気と希望が与えられる。これはまさに、《わたしは既に世に勝っている》というキリストが、私たちにくださる先取りした勝利宣言を魅せられている。(神谷)